

7. 地域共創センターの活動

(1) 目的

地域共創センターは、大学の教育研究の成果を地域に活かすとともに、地域課題の解決に向けた教育、研究、社会との連携を図り、「地域と協働・共創する大学まちづくり」の総合的な展開を図ることを目的とする。

「つなぐ」…東北公益文科大学の教育研究の成果を活かしながら、地域の人たちと共に、まちづくりや地域課題の解決、地域の活性化を推進する活動拠点

「むすぶ」…東北公益文科大学がめざす「大学まちづくり」のさらなる充実に向けて、行政や企業、地域の人々と、公益大をつなぐ

「つどう」…市民と大学のつどいの場を提供する

(2) 役割

① 学外との窓口業務

ヒアリングシートを用いて地域からのニーズを把握し、学内のシーズとの調整を行う

② 公開講座の開催

「公益教養プログラム FORUM21」、「共創カフェ」、各種シンポジウム・講座等の開催

③ 学生活動支援のための競争的資金制度の運営

「学生活動支援助成金」、「まちづくりインターンシップ旅費補助金」、「災害復興・地域防災活動支援助成金」の運営を通じた学生の自発的活動、地域貢献活動の支援

④ サービスラーニングの支援

ボランティア活動、地域課題解決等に取り組む学生を対象とした研修会の開催、防災等に関する研修会の開催など学生の自発的活動、地域貢献活動の支援

⑤ 地方創生に向けた人材育成事業

学生が庄内地域の企業を訪問、取材をし、若者ならではの視点で地元企業の魅力や地域で働く先輩のライフスタイルを発信する「ハタラクカタチ」を作成

⑥ 受託事業の運営

「地域共創コーディネーター養成プログラム」運営委員会の事務局機能等、受託事業の運営

⑦ 学生及び大学の地域活動等に関する発信

Facebook や大学ホームページにて活動等を発信

(3) 活動内容

① ヒアリングおよびマッチング事業

ヒアリングシートを用いて地域からのニーズを把握し、学内のシーズとの調整を行った。令和元年度は35件の依頼を受け付けた。マッチングが成立する各種事業、活動については必要に応じて地域共創センター職員及び運営委員が実施、協力を行った。

※Ⅱ-8. (1) ①主な活動 地域共創センター参照

② 「公益教養プログラム FORUM21」、「共創カフェ」各種シンポジウム

教職員、学生を対象に企画募集を行い、地域共創センター運営委員会での協議の上、

令和元年度は「公益教養プログラム FORUM21」を9回開催した。また、学生主体で運営を行った「共創カフェ」を7回開催した。

※Ⅱ-8. (1) ③公開講座 参照

③ 「学生活動支援学生活動支援助成金」、「まちづくりにインターンシップ旅費補助金」、「災害復興・地域防災活動支援助成金」の運営事業

学生活動支援のための競争的資金制度については令和元年度に3回の公開プレゼンテーション審査を行い、合計22件の採択・支援実績を達成することができた。学生の学内外の自発的活動、地域貢献活動の促進を図った。また、支援対象となった学生については「学情システム」に採択助成金、活動内容、活動実績等に関する情報を掲載し、「ディプロマ・サプリメント」「ポートフォリオ・サマリー」への反映が行われるよう、教務学生課とシステムの連動に関する検討を進めて行く。

※Ⅱ-8. (1) ④地域共創センターの活動 参照

④ サービスラーニング支援事業

学生活動支援のための競争的資金制度を活用し、さらなるステップアップを望む学生と、これから新しい活動に挑戦しようとするスタートアップを望む学生の2つの段階にある学生の支援のための研修会等の学習機会を設けた。前者の学生については外部資金調達や組織運営の方法等に関するテーマの学習機会を開催し、後者の学生についてはボランティア活動や協働に関する学習の機会を開催した。いずれも学外の他団体と連携をしながら、学生主体で企画、運営を行った。

※Ⅱ-8. (1) ④地域共創センターの活動 参照

⑤ 受託事業

「舟形町住民主体の地域づくり事業」、「地域共創コーディネーター養成プログラム」、「ボランティアコーディネーション力3級検定」を受託した。

※Ⅱ-8. (2) 受託研究・受託事業・補助事業等の状況 参照

⑥ 学生及び大学の地域活動等に関する発信事業

地域共創センターで支援を行っている学生の地域貢献活動、「公益教養プログラム FORUM21」、「共創カフェ」、その他委託事業等に関する情報を随時、大学のホームページ、地域共創センターのFacebook等において発信し、大学主催の情報交換会への積極的な協力を行った。今年度の発行物としては、冊子「ハタラクカタチ」、「チーム moreE 活動報告書」、「Praxis 活動報告書」、「地域共創センターパンフレット」を発行した。

⑦ 地方創生にむけた人材育成事業

学生が庄内地域の企業を訪問、取材をし、若者ならではの視点で地元企業の魅力や地域で働く先輩のライフスタイルを発信した。令和元年度は、8社を訪問し、15名の社会人にインタビューをして記事をまとめて冊子「ハタラクカタチ」を発行した。

※Ⅰ-1-(8)①地域共創センターによる若者定着に向けた事業 参照